

## 地域振興部長 説明要旨

地域振興部長の赤坂でございます。  
どうぞよろしくお願いします。

それでは、地域振興部における主な施策等について御説明いたします。

はじめに、地域づくりにつきましては、人口減少が続く中、住民が安心して暮らし続けられる魅力ある地域をつくるため、地域内外の人々が集い、活動できる「賑わい拠点」を形成し、地域コミュニティの活性化に取り組んでまいります。

また、移住・交流施策の推進につきましては、引き続き「しごと」「くらし」「すまい」における移住者支援を充実させるとともに、これからの地域の担い手確保のため、テレワーク、起業複業など多様な働き方による二地域居住促進に向けた取組や、地域と県外人材をつなぐオンラインコミュニティの構築など、地域との継続的な関わりを通じ、本県への人の流れの創出・拡大に取り組んでまいります。

次に、公共交通につきましては、地域住民の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保するため、地域間幹線系統のバス路線に対する助成を行うとともに、アドバイザーの派遣やライドシェア等の実証運行への支援を行うなど、県地域公共交通計画に基づき各種施策を実施してまいります。

引き続き、地域公共交通の維持確保及び利便性の向上を図るとともに、県内の各事業者と連携し、公共交通の利用促進に取り組んでまいります。

次に、デジタル社会の推進につきましては、e スポーツの更なる振興に取り組むとともに、創造性豊かなゲームクリエイター同士が交流できる環境を整えることで、若者をひきつける魅力的な文化の形成と、多様な人々の交流による地域の活性化を図ってまいります。

また、ドローンの利活用を全庁的に展開し、より一層、行政サービスの向上や県庁内の業務効率化を図るため、ドローンに関する一般的な知識や操縦能力を持つ職員の養成に取り組んでまいります。

最後に観光についてでございます。令和6年の観光客数は、夏季に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表による影響はあったものの、世界遺産登録20周年記念「聖地リゾート！和歌山キャンペーン」など大々的なプロモーションを実施した結果、観光入込客総数、日帰り客数、延べ宿泊客数ともに前年を超え、特に外国人延べ宿泊客数は過去最高を記録しました。また、本年3月には米国のトップ媒体である『TIME』が発表する「世界で最も素晴らしい場所 2025 年版」の「訪れるべき場所」部門で熊野那智大社と那智山青岸渡寺が選定されるなど、世界における認知度も更に高まりつつあります。

こうした中、現在開催中である大阪・関西万博を好機ととらえ、県内市町村等と連携したプロモーションや JR 西日本とタイアップした「万博プラスワントリップ和歌山キャンペーン」を実施するとともに、海外からの誘客につきましても、現地の旅行会社等へのセールス、メディアやインフルエンサーを活用した情報発信等を推進します。

加えて、熊野白浜リゾート空港を活用した首都圏からの更なる誘客や国際チャーター便の誘致の強化、新たな客層を呼び込むために関係自治体等と連携した高級宿泊施設の誘致により、多くの観光客に本県を訪れてもらえるよう引き続き取り組んでまいります。